

婦人会本愛支部総会 近づく

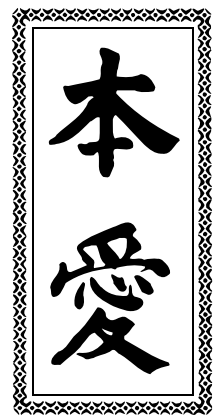
5月20日に第93回総会を開催

婦人会本愛支部では、今年20日に第93回総会を開催する。教祖140年祭へ向かう三年千日の旬に、本愛支部ではこの総会にさらなる飛躍を期し、現在多くの会員への声かけを積極的に行っている。

天理教婦人会では現在、「ひながたをたどり陽気ぐらしの台となりましょう」を成人目標とし、「教祖140年祭に向かって育つ努力、育てる丹精に徹しよう」を活動方針に定めて活動を推進している。

こうした中、本愛支部では5月20日に第93回を開催する。当日は、午前10時からおつとめ・十二下りてをどりをつとめた後、婦人会本部の祝辞のほか、大教会長挨拶に続いて新委員長任命、支部長の挨拶などが予定されている。

また、昼食を挟んで、4年ぶりとなるバザーを開催予定。本愛支部では三年千日の年祭の旬に、多くの会員へ声かけを行っている。



発行
天理教本愛大教会
〒453-0821
名古屋市中村区大宮町1-60
TEL (052) 461-4326
MAIL mail@hon-ai.org
〒632-0071
奈良県天理市田井庄町19-1
TEL (0743) 62-0378
編集責任 広報部

年間活動目標
今日を陽気に。
つながる、
つなげる。

4月神殿講話より
天理教里親連盟委員長
梅原啓次先生

本教では昭和23年に里親制度ができる以前から、国々所々の教会で布教活動を進める中で、教会を中心に子供ばかりではなく身上事情の難渋を抱えた、寄る辺のない人たちをお預かりし、親身にお世話取りをしてきた歴史がございます。私が現在委員長を務めさせていただいている「天理

教里親連盟」では、「人の子を預かって育ててやるほど大きなたすけはない」という教祖が仰せくださったお言葉を抛り所として、一れつきようだいの教えを基に初代真柱様が養徳院開設時にお詠みくださった「人の子も我子もおなじころもて おふしたて、よこのみちの人」のお歌を基本信条として、「『大きなたすけ』を世界へ広めよう ようぼく家庭が社会的養護の担い手に」をスローガンに掲げ、里子を教会家族で温かく育むとともに、ひいては親子共々に陽気ぐらしのご守護を頂いてもらえるよう、24時間365日のおたすけに取り組んでおります。

YouTube
続きは
本愛大教会
公式チャンネルで
4月神殿講話
梅原啓次氏
天理教里親連盟委員長
大啓分教会前会長

※上記のQRコードを読み取って、ご覧ください。本愛誌の読者限定で公開している動画ですのでチャンネル内の動画一覧からはご覧いただけません。

入社祭	1日	午前10時
よふき会例会	2日	午前10時
女子青年例会	7日	午前10時
月次祭	13日	午前10時
祭典終了後、学生層育成者講習会		
青年会例会	13日	午前10時
布教実修所	14日	午前10時
むつみ会例会	16日	午前10時
こども食堂MOGU	17日	午後5時
婦人会本愛支部第93回総会	20日	午前10時
ほんあいOKEIKO	21日	午前10時
本部月次祭	26日	午前9時
ほんあいきッズキャン	27日～28日	

5月のこよみ

現代に生かす

「用木の道」

文・安藤吉人

治元(1864)年

に飯降伊蔵先生によ

って建てられたのが「つと

め場所」でした。

つとめ場所に続いて建て

られたのが、「中南の門屋」

です。私たちは『教祖伝』

などを通して、この門屋を

長く教祖がお居間になさっ

ていたことを知っています

が、これは一般的には少し

違和感のあることです。な

ぜなら、この当時の門屋(か

どやと読むこともある)は、



とでした。その初め

として、最初に母屋

のとりこぼちをなさ

れます。そうして取

り払われた場所に元

居間とされ、そこで訪れる

人たちを一人ひとり出迎え

られました。このことだけ

でも、教祖がどのようなあ

り方で人々と接せられよう

となさっていたのかを拝察

することができるようと思

います。

門屋の建築から5年後の

明治13年に内蔵が、そのさ

らに3年後、教祖85歳のと

きによく御休息所が建

てられます。ご自身がお休

みになる場所を最後に建て

られたことにも、教祖の親

心を感じられる気がします。

ところで、教祖御在世当

時から仕えられた榊井孝四

郎先生によれば、いざなぎ

のみこと様(うを)といざ

なみのみこと様(み)の大

きさは、つとめ場所の北側

で教祖がお座りになった神

座から中南の門屋までがそ

れぞれの頭と尾、つまりい

ずれも20〜30メートルほど

であったとされます。

「元の理」のお話は現代の

私たちには想像しにくい部

分もありますが、記念建物

に行くことで、より具体的

にイメージできるかもしれ

ません。

記念建物を拝見すると、

「この場所に教祖が座って

おられたのだな」「この柱を

教祖も普段触っておられた

のかな」などと、当時の教

祖の様子をありありと想像

することができま

す。教祖のひながたを身近に

感じることは、私たちが壁

にぶつかつたときや困つた

とき、あるいは嬉しいこと

があつたときにも教祖のご

存在に思いを致すことにつ

ながると思います。教祖を

お慕いする気持ちを培うこ

とは、教祖140年祭に向かう

日々の中で、何にも増して

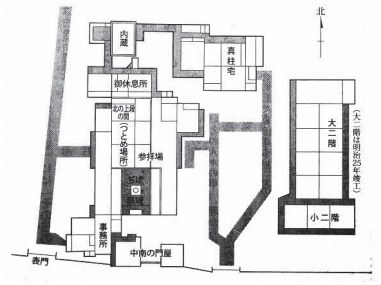
大切なことではないかと私

は感じます。

記念建物から分かること

立教以来、まず教祖がな
さつたことは、ご存知の通り
「貧に落ちきる」というこ

明治24年ごろのおやしき



公式サイトと YouTube をご活用ください!

天理教 本愛 Q 検索

こんなに便利



- 大教会の行事日程を確認
- 本愛誌最新号とバックナンバーをダウンロード
- その他お知らせ

楽しく学ぶ



- 祭典の様子をライブで視聴
- 大教会長の連載動画
- 神殿講話の限定配信

教理随想



言わん言えんの理を探る

スポーツでも音楽でも優秀な成績を残すためには、ふだんからの積み重ねが肝腎であるように、私たちが親神様の思召に沿って成人を目指す時にも、小さな心使いの積み重ねが重要です。

おさしづの一節に、常に誠の心と治めば、それ世界成程の人やなあと言う。真の心に誠の理が自由自在。

(明治22年3月5日)

とあります。「成程の人」とは、世の中から見て「なるほど、あれでこそ天理教の人だ」と言わ

れるような人のことで、そこから醸し出される人柄がお道の「匂い」として伝わっていく。これが本当のものをいがけであります。そう考えると、教祖の望まれるようばくに成人するために「成程の人」を目標に据えて、日頃の信仰姿勢を見つめ直し、教えに基づく生き方を心がける。これより他に道はないといつてもいいのではないのでしょうか。

とはいえ、なかなか難しいのが現実です。なぜなら心はコロコロと変わるから。そこで「成程の人」を目指すためには、心の定規が必要になってきます。その一つが「十全の守護」の教えであります。

親神様は「火と水とは一

の神」とお教えくださいました。すなわち太陽の光と熱、水気、そしてそこから産み出される空気。これらが生命の源であります。その命の一角を担われるかしこねのみことのお働き、すなわち風「息吹き分けの守護」によって人間は、特に意識をしなくても呼吸することが出来ます。また呼吸することで使える「言葉」という道具。人間が人間らしく生きるために、言葉の果たす役割が大きいことは言うまでもありません。

■十全の守護を規範に

呼吸は、肺から入った新しい空気中の酸素が、心臓の働きによって全身へ送られ、これによって健康が保

たれています。心臓は、たくさん筋肉線維からできていて伸びたり縮んだりします。その繊維の一本一本がタイミングをぴったりと合わせて活動するので、心臓の内部が大きくなったり小さくなったりして血液が送られる。このことから悟れるのは、陽気ぐらしへ至る道筋は一人一人の心がバラバラでは意味をなさず、一手一つに合わせる心が大切という点です。

そのために、いち早く引き寄せられた私たちようばくが、まず我欲を捨てて低い心になり、感謝の言葉や人の喜ぶ言葉を意識してたくさん使う。これがかしこねのみことの働きを通じて教えられる「成程の人」への道筋であります。

また火と水の性質と姿から考えれば、温みのある心と暖かい言葉、そして柔軟な心と潤いのある言葉を使う習慣。これが身に付けば

「成程の人」への成人は大きく前進するでしょう。ところが、そこに我欲というほこりの心が混じると、火と水の負の部分が表に現れてしまつて、同じように使っているつもりでも、冷たい言葉になったり、また人の心を焦がすようなきつい言葉になる場合があります。から十分に注意が必要です。おさしづに、

：第一言葉愛想、満足は言葉に限る。たゞ言葉と言うた処が、第一人に愛想たんのう知らずしては、道失うて了うく。

(明治34年6月14日)

と教えられます。教祖ひながたの道を歩む努力が求められているこの三年千日は、論達第四号の思召に心を合わせ、十全の守護の教えを規範に、常に温みと潤いのある言葉を心がけましょう。それが「成程の人」を目指す成人の道となつていくのです。

【第 101 回】

温みと潤いある言葉を使い
成程の人への自覚と成人を

5月14日

本愛布教実修所の予定

おつとめ、布教実動

教理講座

講師 細川明・本滋賀分

教会長

「時代の変化と信仰」

3月の初席者

市岡美智子(本中京)

加藤晴香(本晃)

加藤桃香(本晃)

瀧みずほ(本孝心)

服部成佑(本桑名)

本岩塚分教会三代会長

杉村方之霊の二十年祭

本岩塚分教会では3月25

日午前11時より、三代会

長・杉村方之霊の二十年祭

が同分教会で行われた。

お出直し

薫田正次氏(本耕部属・本

豊田分教会会長)

3月27日に出席された。

享年71歳。告別式は3月30

日、松原悟・本耕分教会

事情おはこび

(令和5年3月26日付)



大橋善太郎氏

(大橋氏の略歴)

昭和55年7月27日生まれ

平成11年6月17日おさづ

けの理拝戴

平成20年2月25日教人登

録

(奉生祭) 令和5年6月4日

◎神殿増築願

前会長・大倉八郎氏の
出直しに伴い、大橋善太
郎氏が会長の理のお許し
を戴いた。

◎任命願

本美幸分教会

長を齋主として執り行われ
た。

水谷繁雄氏(本海部部属・

本海門分教会前会長)

4月17日に出席された。

享年91歳。告別式は4月20

日、石井富男役員を齋主と

して執り行われた。

ほんあいキッズキャンプ

2023年5月27日~28日

内容：シュノーケリング(小学4年生以上)
磯釣り、お楽しみ行事(雨天時変更あり)
場所：国立若狭湾青少年自然の家(福井県小浜市)
※詳細は少年会本愛団へお問い合わせください

大教会日誌

令和5年3月25日~令和5年4月24日

3月

25日 修養科志願者面接(於・本愛詰所)

26日 本部月次祭

28日 春の学生おちばがえり(於・本部中庭)

31日 常任役員会議◇役員会議

4月

1日 入社祭

祭主・前会長 扨者・和光重男、伊藤寿輝
指図方・野田正道 賛者・久保真樹、桑子彰
◇祭典講話一山神茂彦

◇前会長挨拶

2日 よふき会例会

おつとめ、十二下りてをどり、連絡会

12日 常任役員会議

13日 月次祭

祭主・大教会長 扨者・桑子保、大倉光晴
指図方・安藤正二郎 賛者・出口邦郎、出口順一郎
◇祭典講話一大啓分教会前会長・梅原啓次先生
◇大教会長挨拶

青年会例会

14日 布教実修所

16日 むつみ会例会

女子青年例会

ほんあいOKEIKO(参加者5人)

17日 こども食堂MOGU(参加者70人)

18日 教祖誕生祭◇よろこびの大合唱

19日 天理教婦人会第105回総会(於・本部中庭)